

講義概要

学部共通基礎教養科目

人間基礎科目群

人間と倫理

倫理の起源は古く、人間が共同体生活を始めて以来のことである。これまでいつの時代にも倫理をめぐる様々な事件が起こり、論争が続けられてきた。近年も政治・経済・科学～日常生活にわたるきわめて広い領域で我々の倫理的見識が問い直されるような激論がたたかわされている。我々は一般市民として倫理をめぐる諸問題に注目し、その議論に耳を傾け一定の見識をもたねばならない。この講義は様々な事件、社会現象などを題材にして倫理学の基本的知識と思考方法を身につけることを目標とする。

人間の発達

我々人間は、一生涯を通じて展開する各発達段階において多様な心身の様相を見せる。発達心理学は、そのような発達のメカニズムについて検討を加え、人間の発達に関する科学的な知見を蓄積してきた学問である。本講義では、知覚、思考、記憶、感情、言語などといった人間の基本的機能における発達心理学の基礎的な知識について紹介をすることにより、受講生が発達心理学の見地から思考する能力を獲得し、人間の発達や自己のキャリア実践に関する深い洞察を得ることができるようになるのを支援していく。

日本国憲法

日本国憲法の中でも、とりわけ人権の尊重と平和主義に焦点をあて、日本国憲法史、天皇制と主権在民、日本国憲法の基本理念を観念的に理解することではなく、理念を体得し、健全な人権感覚・平和感覚を備えた社会人・生活人を育成することを目指し、明治憲法の成立史及び明治憲法の特徴、明治憲法下の天皇制と日本国憲法下の天皇制との違い、憲法九条と各国の戦争放棄条項の違い、あわせて、法における条文解釈を理解させると共に、人権論や平和主義を中心に、なるべく多くの判例を取り上げ、判例を通じて要点を理解するよう講義する。

地球環境問題

地球温暖化などの「地球環境問題」や、廃棄物問題などの「地域環境問題」を考え、自己の地球市民としての見識の高揚を図る。環境問題の本質論を論じ、各課題について講義とグループによる調査・発表・ディスカッションを併行して理解を深める。ビデオ等視聴覚教材の活用、簡易な実験等体験学習を入れた総合的学習により、環境問題を概念的に捉える能力を養成する。各課題について現象・原因・対策を理解し、環境保全自律行動、解決策の企画・提案・実行力、環境問題への新しい視点を育成する。

生涯学習概論

生涯学習の理論的・実践的問題についての基礎的・基本的な知識を習得することを目的とし、以下の目標のもとに講義する。

1. 生涯学習の概念について理解する。

2. 生涯学習社会における教育改革について理解する。
3. 生涯学習社会における発達課題について理解する。
4. アメリカにおける生涯学習社会の実態を把握する。
5. 生涯学習の概念に関連する学問領域の諸理論を理解する。
6. 日本における生涯学習政策について考察する。

正しい日本語

現代の日本語の乱れは目を覆うべきものがある。特に「仲間内でしか言葉が通じない」「敬語が使えない」

など、日本語の能力低下を嘆く声が頻繁に聞かれる。ことばには音声言語と文字言語があり、音声言語は文字言語に比べて規範的でなく具体性に富むものであるから、音声言語から文字言語の順で学習を進める。音声言語では、国語の語彙、文法的特徴及び音韻など日常生活のことば・死語・新語・流行語等私見を交えながら易しく学び、正しい会話・若者らしいことば使いを習得し、文字言語では正しい表現、修辞等を具体的に学ぶ。

近代日本文学

文学とは人の心の綾であり、その綾なす心を理解しようとする心根を教えることが目的である。現代青年の精神の荒廃を考察するに、それは日本人らしい心のあり方の欠如に負うところが大きいので、伝統的日本人の心のあり方を学ばせるため、小説・詩・短歌・俳句の文学ジャンルにわけ、それぞれを時代区分（明治以降を5期に分ける）に従って、その時代の文学思潮をあげ、更に作家・作品を講義する。近代文学思潮は日本人の精神の歴史であり、明治以降の日本人がどういう精神の流れをたどってきたかを講義する。

基礎数学 I

大学での様々な授業科目の学習において、数学的な論理的思考力や計算能力は欠くことができない。しかしながら、新入生全員が大学での学習のための十分な数学の基礎知識を備えているとは限らない。本講座では高等学校過程の復習と大学生として必要最低限の数学の知識と応用能力の習得を目標として授業を行う。基礎数学 I では、多項式の四則演算、方程式、複素数の性質、複素数の四則演算、三角関数、指数関数、対数関数、及び微分積分について講義と演習を行う。

基礎数学 II

基礎数学 I に引き続き、高等学校過程の復習と大学生として必要最低限の数学の知識と応用能力の習得を目標として、数列、ベクトルと行列について講義と演習を行う。また大学の専門科目においては観察、実験、調査その他のいろいろな方法によって得られたデータを整理し、分析する能力が要求される。このため本講座では確率論、統計論について推定、検定、正規母集団に関する推測、分散分析など、実際に役立つことを視野にいれた講義と演習を行う。

基礎物理学

今日の社会はハイテクノロジーに支えられており、我々の身の回りにもハイテク機器が溢れている。したがって生活のいろいろな場面で、それらの技術的背景に関係する物理学的な知識が必要となってくる。

本講義では、物理学の全分野を網羅的に講義するのではなく、いくつかの重要なテーマを選び、我々の身のまわりの現象を例にとって、可能なかぎり数式を用いずに、物理の基本的な概念を解説する。また、高校で物理を学習しなかった人や、全く興味のなかった人達にも充分理解し、興味を持てるように平易に解説する。

基礎化学

私たちの身の回りにはすべて化学物質である。これらを単に「物」としてとらえるのではなく、化学物質として認識し、より深い理解ができるよう、身近な日常現象と結びつけて親しみやすく学ぶ。また物質や現象を化学的に捉えるためにミクロな視点から眺める力とそれを表現する方法を学び、生活に必要な物質を正しく扱う「化学の目」が身につくように以下の内容で進める。1. 化学の基礎的概念、2. 物質の成り立ち、3. 物質の存在の仕方、4. 化学変化の種類とおこりかた 5. 生活における化学

基礎生物学

「生命活動の維持」および「生命の連続性」ができることが「生物」の条件である。この講義でははじめに生物の基本単位である「細胞」について触れた後、「生命活動の維持」として「代謝」・「ホメオスタシス」・「免疫」に、「生命の連続性」として「細胞分裂」・「発生」・「遺伝」について講義する。講義にあたっては、基礎を学びながら、「アポトーシス」や「老化」など様々な生物学・医学における最新の話題についてもできる限り紹介する。

人間生活科目群

情報リテラシー I

社会活動において実践的な情報リテラシー能力を習得する必要があることを理解し、インターネットやコンピュータを効果的に活用するための技能と知識および情報社会で生きる態度と姿勢を身につけることを目的としている。学生は、情報の表現・処理とインターネットの仕組みや情報社会の特徴に関する知識および情報モラルについて講義形式で学習し、インターネットによる情報の収集と発信、Wordによる文書作成と Excel による表計算とグラフ作成に関する基本的な技能について演習形式で身につける。

情報リテラシー II

この授業では、単にワープロ・表計算ソフトの操作演習だけではなく、その活用事例を示すとともに学習者が主体的に情報機器を利用して問題を解決する能力を育成する。学生は、講義による新しい情報技術や情報セキュリティに関する知識を学びながら、情報リテラシー I で身につけた技能に加え発展的な技能を活用して、Word による実用的な文書作成や Excel によるデータ分析および PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成について演習し、栄養情報処理のための実践力を身につける。

教養演習 I

本授業は、大学での知的生活や様々な授業で要求される、基礎的な学習方法について学ぶ。大学での学習には法令上でも予習と復習が義務付けられており、勉学への取り組み方が高校生活とは明確に異なっている。そこで本授業では大学独自の方針に基づく教育（教育三綱領に基づく教育）を推進する上で必要となる知識・技術の習得を目指す。

教養演習Ⅱ

この授業では、大学における知的生活で必要となる技術（文章表現、レポート作成技術、知的疑問の解消法など）についての高度の演習を展開する。具体的には、レポート技術の向上、発表の仕方、チームワークによる課題処理などを実践的に学習する。

英語Ⅰ

英語を実用的に運用する際に最低限必要な英文法を基礎から学ぶ。特に英文の基本構造の理解に重点を置き、学習者の第一言語に干渉されることなく英語話者の発想に従って英文を正しく解釈、構築できるようにするのが目標である。下位目標は「英語の基本文型を理解している」「品詞やその働きを理解している」「句と節を区別できる」「名詞の可算、不可算の発想を理解している」「不定冠詞、定冠詞の基本的働きを理解している」「動名詞、不定詞など動詞に関連する表現を理解している」などである。

英語Ⅱ

英語Ⅰに引き続き、英語を実用的に運用する際に最低限必要な英文法を基礎から学ぶ。特に英文の基本構造の確認とその理解の定着を図ると共に、英語を実際に運用する状況を想定して、その際に必要とされる発想方法や表現の形式を理解し習得するのが目標である。下位目標は「各前置詞の持つ空間イメージを理解している」「各助動詞の認知的用法、根源的用法を理解している」「アスペクトを含めた時制の働きを理解している」「仮定法の概念とその表現方法を理解している」などである。

中国語Ⅰ

21世紀の世界像を考える際、中国のグローバル化（グローバリゼーション）の行方が気になる場所である。WTO加盟の意欲やIT革命の進展も著しく、殊にインターネットの普及は驚異的な速さで進んでいる。今後、中国との連絡は殆どeメールになることを予測し、この授業では中国語の読み書き話すの実用的な使い方を習得させる。特に会話は中国語の発音・声調（イントネーション）が違えば相手に通じないので、正しい中国語を修得させるため、基本文法、文型知識を細かく説明し、簡単な文章の作成、翻訳ができるように教授する。

中国語Ⅱ

中国語Ⅰを更に発展させ、発音・声調を正しくすることに留意させ、更に複雑な文型と文法知識の追加により語彙や表現力及び読解力を強化し、読み書き話すの実践的な中国語を習得させる。その際、中国の事情に関するビデオ教材として使用し、ヒヤリングやスピーキングの演習を強化するとともに、インターネットで中国語のホームページを翻訳する宿題を与え、授業において宿題の回答やホームページのテーマなどを解説するなど今の中国事情をインターネットにより学ぶ。

フランス語Ⅰ

フランス語のしくみや初級文法を学ぶとともに、挨拶表現や自己紹介の表現など実用的な日常会話表現を通して、フランス語コミュニケーション能力を養成することを目標とする。また、初学者には難しいとされているフランス語の発音の習得にも重点をおき、街角でよく見られるフランス語にふれたり、フランス語の歌を歌いながら、言葉や発音、さらにはフランスの文化・社会にも慣れ親しむことを目標とする。またフランス語を正しく発音できるように、簡単な日常会話表現を中心にロールプレイングや

口頭練習を行う。

フランス語Ⅱ

フランス語Ⅰに引き続き、フランス語の初級文法を学ぶとともに、随時フランス語の歌を歌いながら、発音を無理なく身につけることを学習目標とする。前期で習得した知識をもとに、さまざまな疑問文や日常の行為を表す表現など、フランス語Ⅰよりはやや高度な表現が出来るようにすることを目標とする。フランス語Ⅰに引き続き、毎回、前回の復習をしながら、ほぼ2～3回かけてテキスト1課を終えるペースで進めて行く。またロールプレイングや口頭練習も同様に行う。

体育理論

運動は、からだを良好に伸ばすために欠くことのできないものである。適度な運動を行なうことによって発育発達をうながし、個人のもつ人間の活動性を促進するものである。運動の生理では、運動によるからだの生理的機能の変化を把握し、生命維持のためにはたらくしくみを理解するものである。そして、日常の身体活動を通して、生理学的立場から理解を深め、自らの健康を高めることの出来る態度や、能力を養い、健康の意義や、健康の重要性を理解させる。

体育実技

健康や体力の維持ないし増進は人間生活を豊かにするうえで重要であり、教育の一分野として位置づけられている体育は、運動技能の向上、身体諸器官の発育発達、社会的態度の形成、健康でかつ安全に対する態度の形成など、身体活動を通して、人間形成を図ることを教育の目標とするもので、その教育効果として学生の生活を豊かにすることができる。そこでバスケット・ボール、バドミントン、テニスという具体的な教材を通して、条件の整備された環境のもとで学習させ、これらの目標を達成せんとするものである。

キャリアガイダンス

みずからの職業観、勤労観を培い、社会人として必要な資質、能力を形成していくことができるよう、社会人基礎力（「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力）やビジネスマナー、コミュニケーション能力など現代社会において必要不可欠な能力を獲得することを目的とする。授業は目的を達成するため三部の構成とする。一部は一般における諸問題に対して、疑問を持ち考え抜く力を養う。二部はそれらの問題解決するために、多様な人と目標に向けて協力する力を養う。三部は目標を達成するために、一步前に踏み出し失敗しても粘り強く取り組む力を養う。

社会との接続

日本人の「働く意欲」は世界の中でも最低のランクとの最近の調査結果が報告されている。多文化、情報過多のグローバル化社会における職業の選択、人生をどう生きるか「自分探し」は大きな課題である。現実社会体験として在学中の就業体験（インターンシップ）は学生の価値観や職業観育成面において実践的なキャリア教育である。講座では、インターンシップを核とし、事前学習として社会や経済の仕組みを理解し、企業研究や職場研究を行いながら社会適応力と就業意識を養う。

クラブ活動の活性化

クラブ活動に学生が積極的に取り組むことにより、協調性、社会性及び自己管理能力など安定した人間性を身につけさせる。本学の学友会クラブにおいて独自に日々の学習スケジュールの中で両立させることのできるクラブ活動を自主的にみつけ、活動の内容、目的、時間など詳細な事前計画を担当教員と協議して立案し、一週間に最低 1.5 時間以上のクラブ活動を実践する。セメスター15 回の活動を最低条件とし、自己の活動内容及び評価をレポートにまとめる。活動中は担当教員とコミュニケーションを密にする。

生活経済学

日常生活で目にするさまざまな価格に関する経済学的思考を養い、生活への応用可能性を探ることに重点をおく。具体的には消費者、企業、個別製品の市場といった経済主体の経済活動に焦点をあてながら、経済学の問題意識、それを解明するための既存理論への理解、現実経済問題への応用、理論の制約などに関する知識を学ぶ。

このような学習を通じて学生には次のような学習成果が期待される。将来専門職業人として社会生活を営むために必要とする社会経済現象を理解することができる。たとえば、豊作貧乏現象の経済学的論理、価格規制（最低賃金制度など）の効果、日常生活の中の多様な価格差別、国民所得と経済成長、そしてインフレと失業などの社会経済現象に関する理解を深めることで、将来社会生活への応用に資する教養を磨くことができる。

人間福祉科目群

少子高齢化と諸問題

長寿は豊かさの象徴であり、本来喜ばしいことであるが、同時に進行している少子化とあいまって、高齢化は暗いイメージで捉えられることが多い。これは、社会規範や諸制度に、人生 50 年時代や高度成長期の人口増加時代のものが色濃く残されていることから、年金・医療費の増大や介護を始めとする様々な問題が顕在化しているためである。また、日本の高齢化は猛スピードで進んでいる。個人や企業、政治、行政等、社会の構成員全てが意識を転換して、人生 80 年時代に相応しい社会・経済システムの構築を急がなければならないことを学習する。

児童福祉概論

高齢化の進展は出生率の低下と大きくかかわりがある。したがって「21 世紀は老人の世紀であるとともに、児童の世紀」でもある。この視点から、日本の将来を担う児童の育成を児童福祉から児童家庭福祉へと発展させて、児童と家族全員のウェルビーイングを達成することを目標とする。児童福祉は、子育ての福祉（ウェルビーイング）である。児童福祉は、すぐれて児童と権利の主体として、児童、親の自立支援の営為ということができる。実際には児童福祉の理念・歴史・実態そして国際的な児童福祉および児童福祉の諸問題について講ずる。

ボランティア理論

これまで日本にボランティア活動が根付かなかった理由は、文化的背景も絡み大変複雑なものであるが、あえてその主要因を2つあげるとすれば、1つは、ボランティア活動に対する誤認識、もう1つは、

実践上での具体的方法に関する知識の欠如と言えよう。事実、阪神大震災ではこれが原因となり、被災地のボランティアセンターは混乱をきたし、多くの人の善意を十分に活用することができなかった。そこで本講義においては、阪神大震災におけるボランティア活動を中心に代表的活動事例を提示する中で、ボランティア活動の意味を問うていく。

ボランティア活動

実際のボランティア現場からの最新の情報をインターネットを用い収集していくことによって、より具体的な方法や現状を紹介していく。このような内容を通して、ボランティアに対する意識の啓発と以下の3点を獲得することを目的とする：(1) 受講生が自らにとってのボランティア活動の意味づけを行い、正しい認識を持つ(2) どうすれば参加できるのか、何が必要となるのか、といった実践上の具体的な知識や方法を獲得していく(3) ボランティアを通してより広い社会的視点を獲得していくことを目指す。

社会心理学

社会状況の中で生きる我々が適応的に行動するためには、社会状況と我々との相互作用の様相について知ることが不可欠である。社会心理学とは、そのような個人とその社会状況との間の相互的な影響過程に関して科学的に研究する学問のことを指す。本講義では、社会心理学における基礎的な知見を紹介することにより、受講生が社会状況における人間の行動を社会心理学的に分析・理解できるようになり、キャリア実践のなかで社会的相互作用を円滑に進めることができるようになるのを支援する。

臨床心理学

臨床心理学の臨床の語源はギリシア語の *klinikos* でベッドという意味である。このベッドは、私たちが使っている普通のベッドではなく、医師や神父が病の床にいる患者の側についてケアをするという意味である。そこから、今日、医師が日々行う治療行為を行う場所を臨床現場と言うようになり、元々、医療用語として使っていた臨床という言葉が心理学の分野に用いて、心理学的なアセスメントや援助を行う学を臨床心理学という。この講義では、こころの悩みや問題を理解する方法、それらの解決方法について学ぶことを目的とする。